



研修プログラム と 参加者の学び

国際理解教育オンラインセミナー入門編(教師国内研修事前研修①)

日時：2021年9月11日(土) 10:00~15:00

実施方法：オンライン(ZOOM)

対象：教師国内研修参加教員・一般参加者(大学生・教員等)

時間	プログラム	講師
10:00-10:10	プログラム説明、講師紹介	
10:10-12:10	オンライン 2030SDGs カードゲーム 「Our World Game」	describe with 代表 高橋優介様
12:10-13:00	休憩	
13:00-14:00	SDG 構造的理解・地域連携につながるワークショップ	describe with 代表 高橋優介様
14:00-14:50	国際理解教育×SDGs 「学校現場でのSDGsの取り組みについて」	D-net 代表 北広島市立大曲小学校 堀教諭
14:50-15:00	終了のご挨拶・連絡事項	

教師国内研修事前研修①

日時：2021年9月11日（土） 15：05～18：00

実施方法：オンライン（ZOOM）

参加者：教師国内研修参加教員

時間	プログラム	講師
15:05-15:15	教師国内研修開始挨拶 国内研修の流れ説明	
15:15-15:30	研修参加者、関係者自己紹介	
15:30-15:50	JICA 事業概要説明	JICA 北海道（札幌）職員
15:50-16:00	休憩	
16:00-16:30	過年度海外研修参加者体験談	2017年教師海外研修参加者 市立札幌藻岩高等学校 高木教諭
16:30-17:30	フィールドワーク先基本情報	NPO 森の生活 代表理事 麻生様
17:30-18:00	日本語学校外国人へのインタビュー質問準備	

教師国内研修事前研修②

日時：2021年9月12日（日） 10：00～17：50

実施方法：オンライン（ZOOM）

参加者：教師国内研修参加教員

時間	プログラム	講師
10:00-10:10	プログラム説明、講師紹介	
10:10-11:10	SDGs を題材にした教材づくりについて	アドバイザー 堀教諭
11:10-11:15	休憩	
11:15-11:40	オンラインほっかいどう地球ひろばツアー	地球案内人
11:40-12:30	教材作りへの資料のまとめ方	アドバイザー 堀教諭
12:30-13:30	休憩	
13:30-14:30	JICA 青年海外協力隊体験談 東川での多文化共生の取組についての紹介	東川日本語学校学校推進室 マネージャー 高野様 多文化共生室室長 山口様
14:30-15:30	東川日本語学校の留学生へのインタビュー ・コウ ウさん（中国） ・アティポーン ルアンサクンさん（タイ）	東川日本語学校留学生
15:30-16:00	東川小学校公開授業 Globe についての紹介	東川町立東川小学校 木村教諭
16:00-17:00	SDGs マッピングワーク・講評	アドバイザー 堀教諭
17:00-17:50	フィールドワークプログラム説明 【参加者グループワーク】役割分担など	

教師国内研修 事前研修の学び

※すべて参加教員の感想で構成されています。

※教員による原文を活かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

中標津町立中標津小学校 太田 三菜美 教諭

事前研修① 9月11日(土) ※オンラインで実施

【国際理解教育オンラインセミナー（入門編） ～SDGsを学ぶ～】

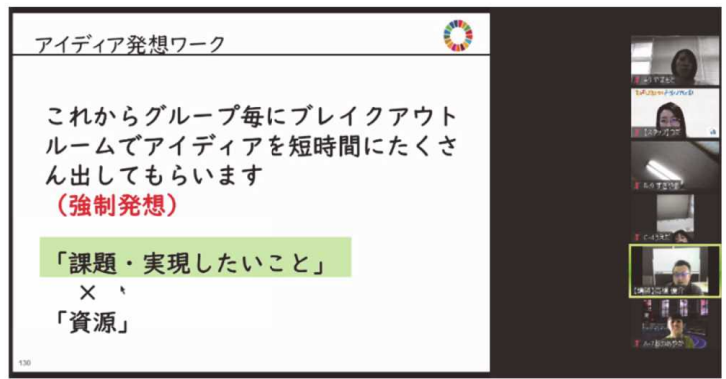
教師国内研修最初のセミナーでは、「2030SDGs カードゲーム」オンライン版に参加し SDGs を体験的に学びました。このカードゲームの公認ファシリテーターである高橋優介さんの進行の元、大学生から教員まで幅広い参加者が集まり、SDGs について意見交換をしながらグループワークをすすめました。

バーチャルリアリティー(仮想現実)の世界で、自分のアバターを使って SDGs について学ぶことができるのがとても手軽であり、理解しやすいと感じました。

ゲームの中で「経済」「環境」「社会」という3つの軸をもとに、より良い世界を他者と協働して作り上げていくという目的意識を持つことができたのがとても良かったと思います。

また、この3つをバランスよく達成することの難しさも同時に感じました。

この3つの軸が「持続可能な社会」につながる大きな基盤であると知る事が、これからの社会に必要なことの1つだと思いました。



【JICA 教師海外/国内研修 過年度参加者からの報告 ～SDGs×模擬授業への構想～】

2017 年度教師海外研修に参加された市立札幌藻岩高等学校の高木教諭より、フィールドワークから教材制作への構想につなげる工夫や、「SDGs×環境」をテーマにした実践授業についてお話を聞きました。

高木教諭の授業では、子どもたちにとって身近な地域やことがらをテーマにしているということから「身近」というキーワードを大切に自分自身の授業作りでも生かしていきたいと思いました。

【フィールドワーク先の基本情報 ～下川町 NPO 法人 森の生活の取り組みについて～】

下川町を拠点に精力的に活躍されている方からお話が聴けたということが大きかったです。

下川町といえば、近隣の興部町に住んでいた経験があったため自分にとって親近感の持てるお話でした。

自然を活かした活動や「人間と森林」との関わりをベースに活動されていることが大変印象的でしたし、森林を守るだけでなく「生かす」「活かす」を体現されていることから新たな下川町の一面を知ることができました。



【ほっかいどう地球ひろばの紹介】

JICA 北海道（札幌）内にある展示施設、ほっかいどう地球ひろばの野々垣案内人、津田案内人から世界について学ぶオンラインツアーを行っていただきました。

SDGs の特設コーナーでは、日本の SDGs の達成率が世界の中で 18 位ということがわかりました。（4 番・9 番・16 番はすでに達成している）また、世界で起きている「環境問題」や「労働問題」は相互につながりがあることについてもとても興味がわきました。綿花の栽培を 1 つ取っても、栽培に水を大量に使うことによる環境問題があったり、ポリエステルやナイロンなどの化学繊維は便利な一方で、もとをたどると「プラスチック」問題とつながりがあったりすることも改めて学ぶことができました。



【アドバイザーによる参加型手法の紹介】

教師国内研修アドバイザーを務める、堀幸美先生のオリジナル教材「SDGs×コロナ 届けよう！マイエール」の体験と教材制作秘話を伺いました。地域の人材資源を紹介しカード型の学習活動を展開された授業でした。感染症が流行する中であっても「よりよく生きようとする地域の人々」の想いが子どもたちに丁寧伝わった授業であると感じました。堀先生の授業実践から授業構想の観点(視点)についていくつか整理することができました。

SDGs を軸にした授業構想の観点(視点)

- ・ SDGs のどのポイントに当たるだろうか、といった視点で見ていくこと。
- ・ 授業の中で子どもたちが比較しながら聴くことで深まる授業を目指すこと。
- ・ 多文化社会やグローバル社会への視点を持つこと。
- ・ 目標を起点にして授業を作っていくこと。
- ・ 既存の教材から学ぶこと。

SDGs フィールドワーク 1日目

日時：2021年9月18日（土） 15：30～19：00

実施方法：オンライン（ZOOM）

参加者：教師国内研修参加教員

時間	プログラム	講師
～15:30	下川町・浦幌町取材動画視聴 【参加者グループワーク】 インタビュー事項の検討	
15:30-16:00	循環型森林経営に関するインタビュー	NPO 森の生活 麻生様
16:00-16:50	森林環境教育の取り組み紹介 意見交換会	NPO 森の生活 麻生様
16:50-17:00	休憩	
17:00-18:00	SDGs マッピングワーク・講評	下川教育コーディネーター 本間様 NPO 森の生活 麻生様
18:00-19:00	振り返り（60分）	アドバイザー 堀教諭

SDGs フィールドワーク 2日目

日時：2021年9月19日（日） 9:00～17:00

実施方法：オンライン（ZOOM）

参加者：教師国内研修参加教員

時間	プログラム	講師
9:00-10:30	浦幌町 SDGs への取り組みについての インタビュー	NPO 法人うらほろスタイルサポ ート 本間様 十勝おかだ農園 岡田様 浦幌印刷 高室様
10:30-11:20	下川町の学校と地域の協働の取り組みにつ いて	下川教育コーディネーター 本間様
11:20-12:20	【アクションプラン作成】 自身が住んでいる地域で教育の観点から、地域と 学校の協働の取組について	NPO 森の生活 スタッフの皆様 下川教育コーディネーター 本間様
12:20-12:30	講評	NPO 森の生活
12:30-13:30	昼食・オンライン相談会	
13:30-14:30	【個人ワーク】 指導案の素案づくりに着手	アドバイザー 堀教諭
14:30-15:00	意見共有	
15:00-15:20	【個人ワーク】 指導案の素案直し	
15:20-15:30	休憩	
15:30-17:00	振り返り	アドバイザー 堀教諭

教師国内研修 フィールドワークの学び（東川町）

※すべて参加教員の感想で構成されています。

※教員による原文を活かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

北海道釧路北陽高等学校 竹本 万亀 教諭

多文化共生社会に向けた教育とは 9月12日【土】

※対面研修を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン研修となりました。

「東川町での多文化共生についての取組について学び、教材づくりの題材を検討する」という研修目的の元、東川町で暮らし、様々な活動されている方々のお話を聴き、交流しました。

現在、東川日本語学校推進室マネージャーである高野さんからは、青年海外協力隊員としてパプアニューギニアで活動したことをお話しいただきました。感染症対策隊員としてパプアニューギニアの三大感染症（エイズ・結核・マラリア）の対策として、地域住民に対し健康教室を開催したり、地域の子どもたちに「どうやってマラリアを知ってもらうか」模索した過程を知ることができました。高野さん自身も音楽が好きで、地域の子どもたちも音楽や踊りが大好きなことから地元ミュージシャンと共にマラリア予防啓発ソングを制作し SNS で発信していったという話題では、地域の人々に寄り添いながらも生き生きと活動された様子が伝わってきました。

我々に伝えてくださった、「協力隊を終えて」のメッセージ『異国に家族ができた・一人では生きていけない・世界の出来事が自分事に』という内容から、地元北海道に目を向け、これからやりたいことが盛りだくさんあるのだとエネルギーを感じました。



東川日本語学校 多文化共生室室長の山口さんからは、東川での多文化共生の取組についての紹介をお話しいただきました。2015年 東川町立東川日本語学校設立当初より、町民の方々が個人的に外国人留学生のサポートをしていたこと、多文化共生支援室が設立され、現在に至った経緯など、同じ北海道でこのように地域の人々が海外の学生のサポートに携わっている町があることに驚きました。「同じ東川町民としてお互いを尊重し合い共に生きていく町づくり」をする精神に感激すると共に、こういった事例を知っていきたいと思いました。留学生へ平日の放課後に行っている会話サポートの活動は、地域おこし協力隊や町民ボランティアが携わっており、学生さんのためだけでなく、地域の人々のやりがいや楽しみにもつながっているのだと感じました。

るのだと感じました。

東川日本語学校の留学生コウ・ウさん（出身国：中国）、アティポン・ルアンサクンさん（出身国：タイ）との交流では、皆の自己紹介「私の好きな食べ物」から始まり、「日本語で好きな言葉は何ですか？」「東川町に来て、仲良くなった人はどんな人ですか？」など、我々が考えてきた質問を受けていただき和やかな交流でした。お二人は、きらきらした表情の中にも、目的をもって東川に来た凛とした姿勢が印象的で、直にお話をきけた貴重な時間でした。



東川小学校 木村 智美 先生からは、国際社会で活躍する人材を育てる新設教科「Globe」についてお話しいただきました。Local 要素 Global 要素 Communication 要素を軸に、幼児センター、小学校 4 校、東川中学校、東川

高校の職員、教育委員会が連携して研究している様子を伺いました。毎月行われる「ミニ Globe 会議」では幼児センター、小中高教員、教育委員会職員が集う様子など、この町の規模に無理ない形であるのと、携わっている職員のやりがいにもつながっているのではないだろうかという感想を持ちました。



東川町の豊かな自然条件だけでなく、地域の人や日本語学校の学生さんなど、子どもたちと地域の人材をつなげる役割も担っており、都市部から離れた北海道の各地域で目指す理想的な状況だと感じました。



教師国内研修 フィールドワークの学び（下川町）

※すべて参加教員の感想で構成されています。

※教員による原文を活かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

北海道滝川西高等学校 齋藤 千晶 教諭

循環型森林経営と森林環境教育の実践を知る！ 9月18日【土】・19日【日】

※対面研修を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン研修となりました。

当初予定では、事前研修での学びをもとに、実際に皆で下川町を訪れ、フィールドワークを行う予定でしたが、緊急事態宣言の期間が延長されたことにより「フィールドワークは中止とし、オンラインでの研修となる」旨の連絡を受けました。

フィールドワークの中止を受けて、研修前には、各参加者の自宅へ「下川町セット」が郵送されました。中身は、新鮮な森の香りにあふれたおがくずのバック、カラマツの枝葉、そして、そこから作られた割り箸、アロマオイル。直接現地に行けない私たちが少しでも下川町に触れられるように、という JICA 北海道のスタッフの皆さんの温かな心遣いと、木の香り、ぬくもりを感じて嬉しくなりました。



「下川町セット」

※時間が経って、左手前の枝葉は枯れて茶色になってしまったが、送付時は新鮮な緑色だった。

さて、いよいよ研修がスタート。18日午前中は、参加者それぞれが下川町にて取材・収録された動画を視聴しました。

下川町が行う『循環型森林経営システム』の紹介に関する3本の動画のうち1本目では「溪和森林公園」の森の様子が紹介されました。下川町の豊かな天然林と60年サイクルで植樹・育林をしている人工林の中をゆっくり散策する気分を味わいながら、人工林の具体的な手入れの方法等について説明を受けました。

動画の最後には、音楽家・坂本龍一氏が代表を務める森林保全団体「more trees」の森が登場、音楽科教員として森林産業と音楽がつながることに驚きと感動を覚える瞬間でした。



続いて、「森林組合北町工場」についての動画を視聴。伐採された木が円柱、木屑、木炭などへ加工される様子や木炭が「安い輸入ものに押されて生産を停止した」との説明が印象に残りました。



3本目、エネルギー自立型コミュニティである「一の橋バイオレッジ」の動画では、人口減少の緩和や移住者の増加に表れている下川町の魅力について知ることができました。

以上の動画視聴を受け、NPO法人 森の生活・代表理事 麻生翼さんにインタビューを行いました。教師国内研修参加者で質問事項を整理し、循環型の森林経営が始まったきっかけや、町の人々との関わりなど、背景について深く掘り下げて知ることができました。

インタビューのあと、麻生さんと、下川町教育委員会配属の教育コーディネーター本間さんの同席のもと、下川町の取り組みをまとめるSDGs マッピングづくり（情報整理）を行い1日目が終了しました。

1日目全体を振り返ると、下川町や知り合った方々に親近感と尊敬の思いを感じると同時に、「木」という身近な素材について改めて深く考えることができました。「木を切る＝地球環境にとって良くないことである」という一面的なとらえ方をしていた自分にとって、循環型森林経営について知ることは新鮮であり、使い捨てである割り箸について、その使用が良いとか悪いとかいうことを一概には言えないということを感じました。そしてそのことをもう少し掘り下げ、授業の中で生徒にも考えさせたいという意欲がわきました。

研修2日目は、下川町の学校と地域の協働の取り組みについて紹介を受けたあと、1日目にもお世話になった教育コーディネーターの本間さんを再び講師に迎え、参加者それぞれが自身の地域における「地域と学校の協働の取り組み」についてのアクションプランを考えました。

午後からは、指導案の素案づくりに着手しました。

私は「割り箸」に関する多様な考え方をテーマとしたロールプレイングを軸とし、具体的な指導案の作成を開始しました。しかし、進めていくにつれ、自分にはまず知識が足りないと感じる部分が多々あり、「本当に授業として実現できるのだろうか」という不安も湧き上がりました。

不安がありつつも、時に厳しくも笑顔で相談にのってくださるアドバイザーの堀先生や、共に研修を受けている5名の先生方との繋がりが、オンライン上でも大変心強く、11月に予定している授業実践に向けて頑張る準備を進めていこうと決意することができました。



※すべて参加教員の感想で構成されています。

※教員による原文を活かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

地域への愛着を育む教育の仕組みづくり 9月19日【日】

※対面研修を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンライン研修となりました。

【浦幌町 SDGs への取り組みについて】

浦幌町に関わる取材動画を事前に視聴し、地域で様々な活動をする3名の方にインタビューさせていただきました。

＜インタビューにご協力いただいた方＞

NPO 法人うらほろスタイルサポート 理事 本間 悠資さん

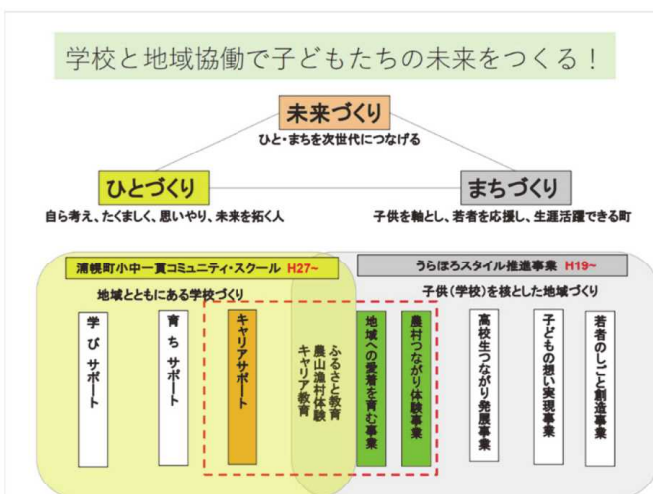
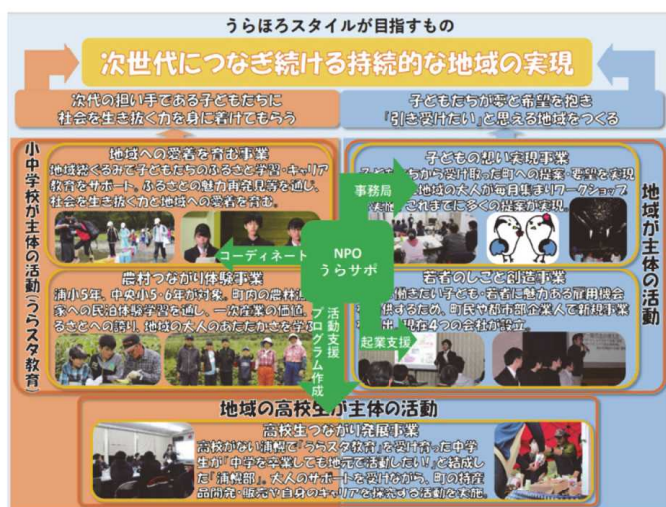
十勝おかだ農園 企画販売担当 岡田 愛啓さん

浦幌印刷 代表取締役 高室 智全さん

うらほろスタイルとは

・学校での「ふるさと教育」や「キャリア教育」を軸に、小中9年間を通して子どもたちがふるさとへの夢と希望をもてるようにと始まった取り組み。

・学校や地域が一体となり、「地域への愛着を育む事業」「農村つながり体験事業」「子どもの思い実現事業」「高校生つながり発展事業」「若者のしごと創造事業」などを行う。



※2021年度現在

【インタビューの回答から】

・本間さん（NPO 法人うらほろスタイルサポート）

学校と地域を繋ぐ役割として大切にしていることや現状の課題などについてお話をうかがいました。

常に「子どもたちのために」という気持ちを軸に、地域の方々に目的や想いを共有することで、地域の協力を得ることができているとおっしゃっていました。また、コロナ禍で制限のある中でも、「出来ること」に目を向けて工夫されているということが分かりました。本間さんのように情熱をもった地域の方が教育活動に関わっていただけることで、その地域で生活する子どもたちや先生方にとって、より充実した取り組みができるのだと感じました。



・岡田さん（十勝おかだ農園）

小学校5年生を対象にした民泊体験の受け入れを行っている岡田さんからは、実際に関わる子どもたちの様子や地域の変化についてお話を伺いました。農家でありながら農業を体験したことがない子どもたちが多く、民泊での農業体験を積極的に行ってくれる姿が嬉しいと話していました。また民泊体験を通して、子どもたちの変化を実感し、事業に興味をもってくれる人が増えたという話題もあり、岡田さんたちの子どもたちに対する想いが形となって表れた結果なのだと感じました。



・高室さん（浦幌印刷）

浦幌印刷の高室さんからは、「子どもの思い実現事業」に関わるお話をうかがいました。最近では、子どもたちから、まちの弱みを強みに変えるような課題解決の提案が多くなってきているという話題がありました。自身も浦幌町のご出身ということで、浦幌町に住む子どもたちの気持ちも理解をしながら、町のため、子どもたちのために事業に取り組まれているのだと感じました。



←小学生の提案で実現した町のマスコットキャラクターが入ったランドセルカバー

【研修を通して】

浦幌町は学校と地域が一体となって、「未来づくり」「まちづくり」「人づくり」に本気で取り組んでいる町なのだということを知ることができました。うらほろスタイルの活動を通して得た人とのつながりや経験が、子ども達の人生を豊かにしていくのだと感じました。

「まちづくり」という点においても、各市町村にある物質的な資源は限られますが、そこにいる人の思いや行動がそのまちを魅力的に見せるのだと気づかされました。

簡単なことではありませんが、多くの市町村でこういった取り組みが行われていくことを願います。

国際理解教育オンラインセミナー初級編(教師国内研修事後研修①)

日時：2021年10月2日(土) 10:00~12:30 / 13:30~18:00

実施方法：オンライン(ZOOM)

対象：午前 教師国内研修参加教員・一般参加者(大学生・教員等) / 午後 教師国内研修参加教員

時間	プログラム	講師
10:00-10:10	開会、挨拶、プログラム説明、講師紹介	
10:10-10:50	【小学校高学年を対象とした教材紹介】 「コンビニから見えるSDGs」	石狩市石狩八幡小学 田中教諭
10:50-11:30	【高校生を対象とした教材紹介】 『水』の真実～私たちの生活と『水』の関わり～	市立札幌藻岩高等学校 高木教諭
11:30-11:40	休憩	
11:40-12:00	【グループワーク】学びの共有	石狩市石狩八幡小学校
12:00-12:30	発表と振り返り	東峰教頭

教師国内研修事後研修①

時間	プログラム	講師
13:30-15:00	【個人ワーク】指導案検討	石狩市石狩八幡小学校 東峰教諭
15:00-15:10	休憩	
15:10-17:30	【指導案検討会】 各自作成した指導案を発表、意見交換を行う	アドバイザー 堀教諭
17:30-18:00	【連絡事項】提出物、授業実践について 次回研修についての案内	

国際理解教育オンラインセミナー初級編②(教師国内研修事後研修②)

日時：2021年12月4日(土) 10:00~12:30 / 13:30~18:00

実施方法：午前 オンライン(ZOOM) / 午後 オンライン(ZOOM) +対面

対象：午前 教師国内研修参加教員・一般参加者(大学生・教員等) / 午後 教師国内研修参加教員

時間	プログラム	講師
10:00-10:10	開会、プログラム説明、講師紹介	
10:10-10:50	【小学校高学年~中学生を対象とした教材紹介】 SDGs×人権「手をつなぐ」	アドバイザー 堀教諭
10:50-11:30	【高校生を対象とした教材紹介】 「教材としてのSDGs(探究活動について)」	北海道池田高校 米家教諭
11:30-11:40	休憩	
11:40-12:10	【グループワーク】学びの共有	アドバイザー 堀教諭
12:10-12:30	発表と振り返り	

教師国内研修事後研修②

時間	プログラム	講師
13:30-14:20	模擬授業の実施① 教師国内研修参加者 山本教諭	アドバイザー
14:20-15:00	意見交換とフィードバック	堀教諭
15:10-16:00	模擬授業の実施② 教師国内研修参加者 杉山教諭	
16:00-16:40	意見交換とフィードバック	
16:50-17:30	教師国内研修参加者による実践授業報告会	

教師国内研修 事後研修の学び

※すべて参加教員の感想で構成されています。

※教員による原文を活かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

北海道興部高等学校 杉山 拓哉 教諭

事前研修① 10月2日(土) ※オンラインで実施

午前は外部から参加されている方も同時に研修を行い、午後は教師国内研修に関わる参加者のみで研修を行いました。

午前

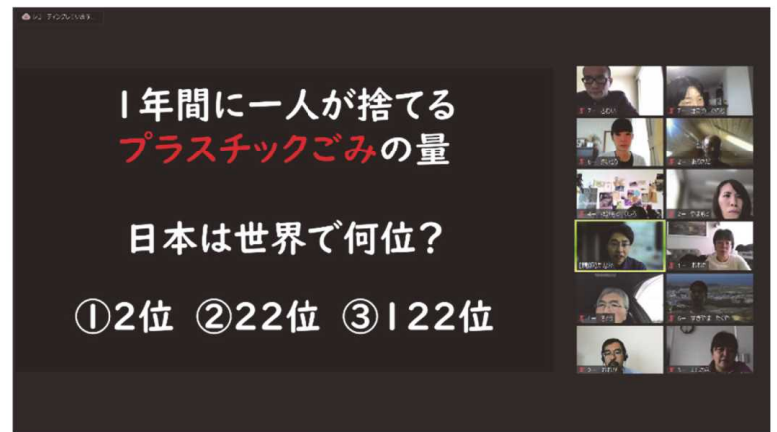
【国際理解教育オンラインセミナー（初級編）①】

午前には外部参加者とともに「SDGsを題材とした教材」を体験し、学びを共有しました。

① 小学校高学年を対象とした教材と参加手法について 「コンビニから見える SDGs」

石狩市立石狩八幡小学校の田中教諭より、SDGsと身近な行動が結びつくきっかけの1つとして、コンビニにそのヒントとなる題材があることが分かりました。

コンビニから様々な製品の背景、プラスチック問題を考え、その問題の解決として「自分たちができること」「地域でできること」を考えていく過程は、エシカル消費やゴミの分別等最近の身近な話題に目を向けるきっかけとなり、消費者である私たちも深く考えさせられる題材でした。



② 高校生を対象とした教材と参加手法について 『水』の真実～私たちの生活と『水』の関わり～

市立札幌藻岩高等学校の高木教諭より、『水』に焦点を当てた授業実践を紹介して頂きました。

一つの製品を作る際にどれだけの水が使用されているかを考える「ウォーターフットプリント」を導入に、『水』問題から『プラスチックごみ』問題へつながる流れ、ロールプレイから共感的に学ぶ手法を紹介いただき、普段意識せず何気なく食べたり、使ったりしているものが実は水の消費が多く、水資源が豊富な日本に住んでいるからといって、大量に消費してしまうと世界のためにならないということを改めて意識するきっかけを頂きました。



午後

【指導案検討会】

フィールドワーク研修で3つの町の取り組みを知り、教師国内研修に参加している各教員はオリジナルの授業づくりに頭を悩ませながら検討会を迎えました。

この検討会では、それぞれが作成した指導案をもとに、アドバイザーである堀先生や教師国内研修の教員同士で意見やアドバイス交換を行い、その授業を受ける児童や生徒の学びがより深まるように、それぞれが指導案の修正を行ったりしました。

この時間の成果が各教員の実践の効果に表れていると感じています。

事後研修② 12月4日(土) ※午後の研修はオンラインと対面のハイブリットで実施

午前は外部参加者とともに「SDGsを題材とした教材」を体験し、学びを共有しました。

午前

【国際理解教育オンラインセミナー（初級編）②】

① 小学校高学年を対象とした教材「てをつなぐ」と参加型手法について

北海道開発教育ネットワーク（D-net）代表であり、本研修のアドバイザーでもある北広島市立大曲小学校の堀教諭より、他者尊重/多文化共生につながる道徳教材を紹介して頂きました。

その教材では、カードゲームを通して子供たち同士で「人権」について考える機会を用意し、共感的に学ぶヒントがたくさん散りばめられていました。

この模擬授業を受け、たとえ肌の色や言語が違ったとしても、同じ空間で学びを行っていく意義や互いに困ったときの助け合いの重要性を感じ、それらを子どもたちにしっかりと教えていくことが重要であることがわかりました。

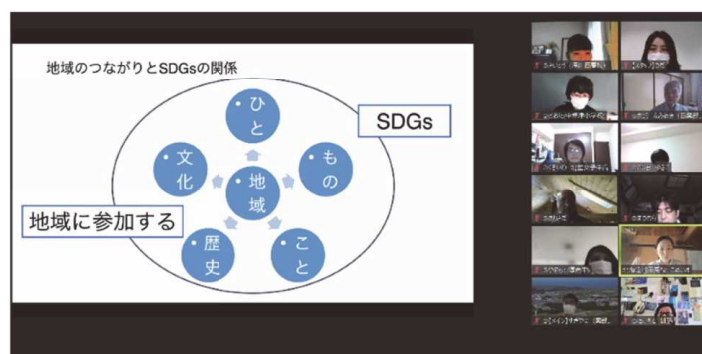


② 高校生を対象とした教材と参加手法について

北海道池田高等学校の米家教諭より、「総合的な探究の時間」と「SDGs」についての取り組みを紹介して頂きました。

学校内で「SDGs」を取り上げる際、なかなか自分事化・行動化に繋がらず、「マイバックを使うようにしよう」で終わってしまいがちなところ、もう一步踏み込み実際の行動化へ繋がる取り組みは非常に興味深かったです。

高校生が学んだことを自分たちだけで享受するのではなく、それを地域の小中学生に分かりやすく伝える取り組みでは、真の意味での「探究」につながっていく重要性についてわかりました。



○午後

【実践授業報告会・模擬授業の実施とフィードバック】

12月の研修では、教師国内研修参加者それぞれが作成した教材の実践報告会（すでに実践済みのメンバーのみ）を行い、自身の教材のさらなるブラッシュアップへ向けて検討しました。

また、これから実践予定である山本教諭より「防災とSDGs」についての模擬授業、すでに実践済みでしたが杉山教諭より「地域とSDGs」を実践報告もかねて模擬授業兼報告会を実施しました。

この日は、模擬授業実施者2名がJICA北海道（札幌）に集合し、その他の4名はオンラインで参加するというハイブリット方式で研修を行いました。オンラインでも、山本教諭のカードゲーム式アクティビティを対面授業さながらに実施することができました。

（※指導案などの詳細については「Ⅲ. 実践報告書（指導案集）」をご参照ください。）

アドバイザー堀教諭及び教師国内研修参加者より、実際の授業に向けての改善点や、追加で行った方がよい取り組みを共有し、この模擬授業を基にさらなる改善を加え生徒に向けて授業を行いました。



※オンラインと対面でのハイブリット研修の様子

教師国内研修報告会

日時：2022年2月5日（土） 13：00～17：00 / 17：00～18：00（参加者のみの振り返り実施）

実施方法：オンライン（ZOOM）

対象：教師国内研修参加教員・一般参加者（大学生・教員等）

時間	プログラム	発表者
13:00-13:20	教師国内研修概要報告	北海道釧路北陽高等学校 教諭 竹本万亀、工藤よしの
13:20-14:10	模擬授業「身近な地域におけるSDGs～割り箸から考える"地産地消"～」	北海道滝川西高等学校 教諭 齋藤千晶
14:10-14:30	授業者による自己評価とフィードバック	アドバイザー 堀教諭
14:30-14:55	教材紹介①「持続可能な社会を目指した教材作り～地域連携の視点から～」	中標津町立中標津小学校 教諭 太田三菜美
15:00-15:25	教材紹介② 「災害につよいまちづくり」	厚真町立厚南中学校 教諭 山本有紗
15:30-15:55	教材紹介③ 「SDGsを自分ごとにするための足がかり」	北海道興部高等学校 教諭 杉山拓哉
16:00-16:35	教材紹介④「美術×英語×SDGs 世界とつながる私たちの癒し空間」	北海道釧路北陽高等学校 教諭 竹本万亀、工藤よしの
16:35-16:47	【グループワーク】感想と学びの共有	アドバイザー 堀教諭
16:47-17:00	【まとめ】教師国内研修をとおして	

教師国内研修 成果報告会を終えて

※すべて参加教員の感想で構成されています。

※教員による原文を活かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

北海道釧路北陽高等学校 工藤 よしの 教諭

2月5日(土) ※オンラインセミナーとして実施

およそ半年間に渡った研修の締めくくりとなる成果報告会。

思い返せば今までの研修で、普段出会えないたくさんの素敵な方々に出会い、たくさんの刺激をいただきました。一緒に学んでくれた仲間の先生方、授業を創る上で協力してくださった皆様、準備をして発表をしてくださった皆様、研修全体を通してアドバイザーを務めてくださった堀先生、オンラインでも私たちの学びが深まるように研修の内容を考えて段取りをしてくださったり、取材に行ってくださいたり、授業を見に来てくださったりとご尽力いただいた JICA 北海道のスタッフの皆様のおかげでこの日があることを、成果報告会の準備をしながら改めて感じました。

どの方も自分のやるべき他の仕事がありながら、この研修のために時間も労力もかけてくださったことに心から感謝いたします。

この日は午前中に研修参加者は各自で発表の最終準備を行い、開始時間の 13 時を迎えました。

オンラインで行われたこの成果報告会には、教員や今までの研修に関わってくださった方々など約 20 名が参加して下さいました。国内研修概要報告から始まり、模擬授業 1 つ、教材紹介 4 つを行い、外部参加者の皆様に私たちの研修成果をお伝えしました。

【国内研修概要報告】

研修で行った内容を時系列で紹介するとともに、各研修を通して学んだことや考えたこと、感想や授業で生かしたことなどを、国内研修参加者から 2 分程度で話していただく場面も用意しました。

【模擬授業：身近な地域における SDGs～割り箸から考える"地産地消"～（齋藤 千晶 教諭）】

模擬授業では、ロールプレイを通して児童生徒参加型の授業の面白さや有効性を体験しました。

身近な「割り箸」を切り口にして、生徒達に「考えさせる」仕掛けが随所に見られる齋藤先生の授業から沢山学ばせていただきました。



【教材紹介】

子どもたちにSDGsを自分事として考えさせるようにどう工夫したのか、子どもたちが実際にどのようなことを考えたのかなど、それぞれの先生から実践の報告がありました。

授業の計画段階から指導案作成、授業実践、その後の振り返りに至るまでいつも適切なアドバイスや励ましを下された堀先生からの最後のフィードバックでは、私だけでなくどの研修参加者も、特別な思いで受け止めたと思います。

教員の仕事は確かに忙しい。毎日、やるべきことに追われてあっという間に時間が過ぎていく。気がつかないうちに目の前のことに必死になり視野が狭くなっていることもある。

コロナ渦で海外研修でもなく対面型のフィールド研修も行うことができませんでしたが、今回の教師国内研修を通して、『「身近な地域」には、「北海道」には、「日本」には、「地球」には、大事にしたいものがたくさんあって、素敵な人がたくさんいること』を十分に感じる事ができました。

SDGs17番「パートナーシップで目標を達成しよう」が少しは貢献できた…？そんなことを考える1日であった。

